

担当教員	<p style="text-align: center;">荒川 裕子 (あらかわ ゆうこ)</p>	2023 年度 時間割	月曜 5 限
------	--	----------------	--------

教員のプロフィール、研究テーマなど

教員自身の専門は「美術史（アート・ヒストリー）」、特に近代以降のイギリス美術を中心に研究しています。この分野に関する展覧会の企画や図録の作成、美術書の執筆や翻訳などにも数多く携わってきました。近年は、「文化政策」や「アート・マネジメント」の観点から、文化やアートがどのように人びとの生活に関わっていくのかを探り、従来の美術史研究の方法論に「政策」や「マネジメント」の視点を導入しようと試みています。

学部の担当授業（「アート・マネジメント論」や「文化経営論」 ※ただし今年度は担当していません）や、ゼミにおいては、文化やアートのもつ「創造的」な力を、地域づくりや文化振興、コミュニティ形成、生きがいの創出などにつなげていく可能性を、学生の皆さんと一緒に探っています。

演習のテーマ

≪文化やアートを介して人や地域とつながる≫

美術や音楽のみならず、映画やアニメ、ダンス、ファッション、インテリア、都市景観など、アートの領域は近年とほまなく拡大してきています。それにともない、アートを鑑賞するだけでなく、まちづくりや地域活性化、新たな文化産業の創出、生涯学習などに、アートの要素を取り入れる試みが広がってきています。

このゼミでは、文化やアートを「**創造的なコミュニケーションの触媒**」にとらえ、文化やアートを介して人と人、人と地域がつながる可能性を探究しています。教室での演習（調べる・発表する・議論する・書く）を通して、文化やアートを取り巻く現状を理解するとともに、各自が自分なりの問題意識にそって研究を進めます。文献を読み込んだり、フィールド調査に出かけて生のデータを集めたりしながら、自身のテーマを深く掘り下げて卒業論文に結実させます。

その一方で、毎年ゼミの3年生を中心に、学外のさまざまな組織や団体と協働しながら、**文化やアートに関わるイベントやワークショップの企画・運営**を行っています。この経験を通して、人びとのライフキャリアの形成に資するようなアイデアを練っていく面白さに気づいたり、学外の多様な人びととコミュニケーションを取りながら企画を実施していく「**マネジメント・スキル**」を身につけます。

右上の挿図は、若者と神楽坂をつなぐことを目的に、現4年ゼミ生が発行したフリーペーパーの表紙です。



演習の内容、進め方など

★原則として対面でゼミを行っています。毎週月曜5限が本ゼミ、続く6限がサブゼミです（サブゼミは3年生を中心に実施）。

学外でのイベントやゼミ合宿など、不定期に集まって活動することもあります。Hoppii やゼミ LINE、Zoom などのツールも駆使しながら、できるだけチームで協力していけるよう工夫しています。

以下は大まかなスケジュールです。

(2年秋学期～3年次)

- ・ 原則として2・3・4年生合同でゼミを行います。互いに学び合い、刺激を受け合っていくことを重視しています。
- ・ 2～3年次は、幾つかの文献資料（論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など）を手がかりにしながら、文化やアートに関わるさまざまなトピックについて、グループ/個人で研究を進め、その成果を発表します。プレゼンテーション力、ディスカッション力を高めましょう。
- ・ 毎年、各自の研究テーマをもとに、2年次の終わりににはレポート、3年次の終わりにには「ゼミ論」を執筆します。

- ・ 教室での学びに加えて、3年生を中心に毎年さまざまなイベントやワークショップを企画・実施しています。企画の遂行には多大なエネルギーと時間を必要としますが、この活動を通じて企画力や交渉術、PCスキルをはじめ、実践的なマネジメントの能力を身につけます。
- ・ 基本的に毎年、学生が主体となってゼミ合宿を企画しています（主に夏休み期間中）。地方のアートプロジェクトに参加したり、遠方の美術館に足をのばしたりしています（もちろん勉強会の時間も設けます）。
- ・ その他、ほぼ毎年、文化やアートの現場で活動している外部の方をお招きして職業人講話をうかがっています。

（4年次）

2～3年次の研究活動の成果をもとに、4年次は卒業論文（または卒業作品）の作成が中心になります。卒論のテーマは、映画、ファッション、アニメ、ドラマ、音楽、現代美術、まちづくり、文化産業など、多彩です。アカデミックな形式にのっとった論文を完成させることで、4年間の学びの集大成になるとともに、生涯を通じて探求していくべきテーマを見つけることができます。

卒業作品の場合は、写真展の企画・開催、映像・アニメ制作、作曲、演劇の台本執筆・上演など、個々人の関心領域にしたがって、教員と相談しながら進めていきます。例年、全ゼミ生の卒業論文集を作成し、研究成果を共有しています。

＜2022年度の卒論テーマの例＞

「日本の音楽市場におけるマーケティングのありかた」、「SNSと若年女性のボディイメージの歪み」、「アートの新たなあり方を考える」、「学生服着用による若者の被服選択意識の形成」、「中心市街地活性化を旨とする建築の試み」、「きものの文化継承方法を探る」などなど。

履修の条件、学生への要望など

- ・ 本ゼミ・サブゼミの両方に参加できる学生のみ、ご応募ください。
- ・ ゼミ活動には、発表に向けての準備、ゼミ企画の立案や実施など、正規の授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。従って、バイト等を優先させる学生はご遠慮ください。
- ・ 「アート・マネジメント論」（春学期）を履修していることが望ましいですが、まだの方は、3年生のうちに必ず履修してください。また、「文化経営論」や「文化マーケティング論」も併せて履修することをお勧めします。

履修希望者向け情報

【ゼミ見学、およびゼミ履修相談について】

5月15日、22日、29日の3回（いずれも月曜5限）にゼミを公開します（教室はF302）。事前予約は不要。毎回、ゼミ生による簡単な説明会の時間を設けます。※ゼミ生が作成した紹介動画も必見！近日中にインスタも公開予定。
担当教員と個別に相談したい場合は、遠慮なくメールでお申し出ください。

★荒川連絡先アドレス：arakaway@hosei.ac.jp

【ゼミ選考について】

ゼミ申請フォームには、以下の各項目にそって全体で1000字程度を目安に記述してください。漠然とした思いではなく、「具体的な記述」を心がけてください。また、必要に応じて「面接」を実施する場合がありますので、必ずご自分の法政Gメールを確認し、併せて学部の「Web掲示板」にも注意しておいてください。

《記述項目》

- (1)当ゼミを志望する理由、(2)ゼミで研究していきたいこと（※できるだけ具体的に）、(3)これまでキャリアデザイン学部の学びを通して得たもの（自分が興味を持った科目やその理由、学内外の活動とその成果、等）、(4)現在考えている卒業後の進路（関心のある業界、大学院進学、起業、等）、(5)自己PR（簡潔かつ具体的に）、(6)現在所属しているサークルや同好会、バンドなど（特に無ければ省略可）。

<p>担当教員</p>	<p>熊谷 智博 (くまがい ともひろ)</p>	<p>2023年度 時間割</p>	<p>水曜5限</p>
<p>教員のプロフィール、研究テーマなど</p> <p>2018年度より本学部へ赴任しました。専門は社会心理学、グループダイナミクス、紛争解決研究などです。キャリアデザイン学部では「アイデンティティ論」「キャリア研究調査法(量的調査)」、「国際関係論Ⅰ」等を担当しています。</p>			
<p>演習のテーマ</p> <p>社会心理学を用いたキャリアデザイン</p> <p>ゼミではキャリアデザインに関する各人の関心や問題意識を、「社会心理学」の知識と手法を用いて取り組む方法について学びます。具体的なテーマについては、学生と相談の上、決めていきます。</p>			
<p>演習の内容、進め方など</p> <p><2年次></p> <p>社会心理学に関する基礎的な知識を学ぶために、テキストを輪読、内容についてゼミ生同士で議論していき、内容の理解を深めます。</p> <p><3年次></p> <p>各自の研究テーマについて発表、関連する先行研究を参考に、自分の研究を計画し、予備的なデータ収集を行います。結果を発表し、ゼミ生同士で検討します。</p> <p><4年次></p> <p>各自の研究を実施し、卒業論文を執筆します。</p>			
<p>履修の条件、学生への要望など</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 統計に関する基礎知識が必要です。「キャリア研究調査法(量的調査)」を履修していると望ましいです。 ● また、このゼミでは「大学生としての教養を磨く」「人生を豊かにする」という視点も取り入れ、教室内の勉強だけではなく、それ以外の時間での活動でも活発な議論と知識の交換、経験の共有を図ります(例えば芸術鑑賞後の飲み会など)。 ● 入ゼミ希望者は志望理由書として①このゼミを志望する理由、②研究テーマについて記入して、kumagai@hosei.ac.jp に送って下さい。送付締め切りは8月31日17時です。また、申請後、面接が必要な場合、連絡は法政Gメール宛に行いますので、必ず確認してください。 ● その他、何か疑問な点や確認したい点があれば、上記アドレスにメールを下さい。 			
<p>履修希望者向け情報</p> <p>ゼミ生からのメッセージ</p> <p>Aさん：統計やプログラミング言語なども活用すると聞いて「難しそうだな…」と思う人が当然多いと思います。</p> <p>しかし当ゼミは学び合いや疑問点解消の時間がしっかり設けられているため、誰かが置いて行かれてしまうということはありませんのでご安心ください。また興味関心のあることを提案すれば、先生もゼミ生も積極的に協力してくれます。良い意味での「ノリの良さ」が熊谷ゼミのらしさであり、強みであると思っています。</p> <p>Bさん：先生もゼミ生も好奇心旺盛で、社会心理学という枠にとらわれず様々な領域について学ぶことができるゼミです。普段のゼミではかしまって何かをするというよりは、ざっくばらんとみんなで話し合いながら進めてい</p>			

きます。個々人でしっかりと意見を持っている人が多いので、行き詰った時にはサポートしてもらえますし、意欲を刺激されつつ学べます。

<p>担当教員</p>	<p>斎藤 嘉孝 (さいとう よしたか)</p>	<p>2023 年度 時間割</p>	<p>水曜 5 限</p>
<p>教員のプロフィール・研究テーマ、ゼミのテーマ：</p> <p>このゼミは「家族」に関することがテーマです。</p> <p>私たちの社会では、家族に関する話題に事欠きません。親子のこと（例：親子不和・父親不在・母子密着・過保護・反抗期・育児ストレス・虐待）、親同士のこと（例：夫婦不仲・勢力不平等）、その他（例：家族不満・でき婚・不妊・晩婚化）。——私自身は、親子・夫婦・きょうだい・祖父母・親族に関する諸事象を、一時点でなく生涯全体を視野に入れて考えています。</p> <p>例えば——「幼少期や思春期の家族経験が、学生の対人関係や将来ビジョンにどう影響しているか?」「家族の衣・食・住の習慣が、子どもにどう影響しているか?」「親の就業や夫婦関係が、学生の働き方ビジョンや結婚観や恋愛観（パートナーの必要性等）に、どう影響しているか?」「家族を形成する前段階としての、男女関係や恋愛に、家族経験はどう影響しているか?」「家族内の男女のあり方（夫妻・男子女子の家族内役割）が、異性関係（恋愛、友情、浮気等）にどう影響しているか?」「きょうだい有無や、きょうだい関係・異性きょうだい等が、学生の対人関係にどう影響しているか?」「家族との死別や離別は、学生にとってどんな意味を持つか?」「大学生は小中高のときと比べ、親を見る目がどう変わるか?」等々。</p> <p>——このゼミは、社会学という学問に依拠しながら、親子・夫婦・きょうだい・祖父母・親族、そして、過去の家族経験、政策制度等を扱います。社会調査や実証分析を用いて、人間や社会に関する量的・質的研究を進めます。</p> <p>ネガティブな問題ばかりでなく、家族のポジティブな側面や促進要因についても、実証的に検討します。</p>			
<p>演習のテーマ：「家族」というものを題材にしながら、毎回のゼミでは、例えば次のようなことに取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解（自分自身のこれまでの家族生活について振り返り、自己を洞察する） ・他者理解（家族のあり方は、自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解する。そうすることで無自覚かもしれないような、自己の視野の枠組みやこだわりなどを認識し、家族一般への偏見や差別を軽減させようとする） ・家族生活を通じたキャリアデザイン（自己や他者を理解することにより、視野を広げ、今後の自己の家族生活——恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護——や就業・働き方、さらには交友関係や地域生活の築き方、について考える） ・家族を通じた社会理解（家族という存在が、いかに社会全体の諸事項と関係しているかを知り、社会情勢や政策等への理解を深める） ・調査研究スキルの向上（実際に量的・質的調査をすることで向上させる。論理的思考・分析力・文章力を含む） 			
<p>演習の内容、進め方など： 大教室の授業とは、いろいろと違います。</p> <p>2年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、自己理解・他者理解を、種々のワークを通して進めます。ゼミ生どうしの距離感を縮める機会も、設けます。 ・そして、家族に関する書籍を読んだり、ゼミ生どうしでディスカッションをしたりします。私自身、大教室の授業とは違った角度や話題から、ゼミという場ならではの役割が果たせればと思います。 ・各自インタビュー調査を実施し、レポートで報告します。家族という、プライベートな領域の調査にはやりがいがあります。 ・同期の交流はもちろん、先輩との交流の機会も、適宜提供したいと思います。 <p>3年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族に関する学術論文を精読します。実証的な論文を選定し、ゼミ全員でディスカッションします。4年次に自分たちが執筆するのは卒業「論文」であり、その準備段階としての経験を蓄積する意味もあります。 ・何らかの形で、家族や子ども、世代間交流などに関するボランティアをやらしてもらいます（短期や単発のものも含めて）。 ・そのボランティアの体験を、各自パワーポイントでプレゼンテーションします。「参与観察」という、質的調査を用います。言葉を使って分析します。 ・これまでのゼミの内容を受け、家族をテーマとして、量的調査（アンケート）をゼミ全体で企画し、データを収集します。 ・ゼミ一同で集めたデータを、各自がそれぞれのテーマに沿って、統計分析します。エクセルを使用予定です。各種の統計手法を学び、実践しながら、統計分析のスキルを身につけていきます。事前のエクセル経験は問いません。 <p>4年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年次は卒業論文作成が中心になります。全員に卒業論文の執筆が必須です。文章の書き方や言葉の選びかた、分析のしかたなどを、個別にあるいはゼミ全体で学んでいきます。いい言葉を使おうとすると、人は磨かれると思います。学生生活の 			

集大成として「学術論文」を作成するのは、将来の思い出や自信にもつながる、やりがいのあることです。

- ・下級生と交流するのも4年生の大切な仕事です。大学生活の過ごし方や経験など、身近なゼミの後輩たちに、ぜひ自らの言葉で語ってほしいと思います。2・3年生は、4年生の姿をみることで、得るものがあります。
- ・就職活動中も、ゼミはあります。ゼミに出席することで、就活のストレスを減らすこともあると思います。ゼミ生同士の情報共有もできるはずです。

2～4年共通

- ・使用文献は、拙著『親になれない親たち』『社会福祉調査』などです。
- ・宴席等で、他者と楽しく過ごせることも大切な資質だと考えています。
- ・必要な際に「メール」で迅速に連絡できることが、ゼミ生としての必須条件です。

履修の条件、学生への要望など：

- ・「ライフキャリア入門B」「家族論」を履修していることが望ましいです（必須ではありません）。
- ・大学生というのは、中高生という、いわゆる思春期を終え、親との新たな関係性を築いていく時期だと思います。また一方で、社会人になることを間近に控え、まもなく自らの家族形成を考える時期でもあります——もちろん様々な個人差はありますが——。この大学生という貴重な時期に、これまでの家族生活や今後の家族形成について時間を割いて考えてみることは、きっと大きな意味があるはず。自分の将来について「家族」を鍵にして考えてみたい、と思う人は歓迎です。
- ・家族を支援する専門の職業・プロフェッショナルに興味のある人も、もちろん歓迎です。（例えば、公務、非営利団体、児童福祉現場、学校・教育現場、高齢者福祉現場、企業内関連部署など）
- ・いまや、どの業種・職種においても、自己理解が強く求められています（就職活動などで）。家族について学ぶことは、自己理解を進めるにあたり、有意義な機会になると思います。
- ・家族について学ぶことは、様々な職場において、その発想を商品開発や営業のしかた等に活用できるはず。家族的～「ファミリー～」等、いかに「家族」というキーワードが“利用”されているか、考えるいい機会になると思います。
- ・家族というものに学術的な興味・関心を強く持っている人も、歓迎です。いい卒業論文を書き、大学という、これまで幼少期から在籍してきた教育機関における、いわば集大成としての「最終作品」を、満足のいくよう、つくり上げましょう。
- ・毎回出席がきちんとできること、課題・宿題にしっかり取り組めること、協調性のあることは、最低限のこととしてゼミ生全員に求めています。ゼミ生たちや齋藤と、和が保てることを重視しています。
- ・飲食や宴席での交流は、各自のライフキャリアや社会化に大きな意味を持つと思います。無理なく積極的に参加し、楽しめる人が理想です。ゼミ生同士や私も含めて、在学中はもちろん、卒業後も良い関係を続けられることを、大切にしています。毎年いいゼミ生が来てくれて、感謝しています。今回もいいメンバーが揃うことを、期待します。

ゼミ生の卒論題目（実例の抜粋）： こんなテーマでゼミ生たちは「最終作品」をつくり上げてきました。

「家族との過ごし方が対人能力に与える影響」「家族間でのやりとりが家族満足度の変化に及ぼす影響」「父親の家族内での幸福度を高めるには」「母娘間における友達親子の関係性は否定されるべきものなのか」「きょうだいからの影響とその要因について」「ネガティブな家庭環境が促す若者の恋愛依存傾向」「ひとり親家庭で育った人への偏見」「大学生の浮気観における家族からの影響について」「家族環境が子の異性関係・モテ度に与える影響」「親が子どもに与える家庭での性別役割分業意識」「家族との食事生活が大学生にもたらす影響」「趣味を通してみる大学生の親子関係」「暮らしの空間が及ぼすパーソナリティ形成の影響」「異性親と理想の結婚相手との関連性」「反抗期の有無が大学生の思考やパーソナリティ形成にもたらす影響について」

【ゼミ見学および履修相談について】

- ・毎週水曜5・6限がゼミですが、その昼休み、5月17日と24日の12:30から20～30分ほど、説明会を実施します。ゼミ生と齋藤で対応します。場所は両日とも、BT0610です。
- ・質問があれば、メールで齋藤がやりとりをします (y.saito@hosei.ac.jp)。気になるところがあれば、連絡してください。

【ゼミ選考について】

「演習履修希望フォーム」に、次の事項を書いてください。①本ゼミへの志望理由（800～1,000字程度）、②これまでに履修した齋藤の担当する科目、③自己紹介、④アルバイト・サークル・部活等、⑤携帯電話番号（または連絡がとれる電話番号）。まずは齋藤から各自の「法政Gメール」にメールを送るので、必ず確認してください（LINE常用者であっても、必ず「メール」を確認してください）。迷惑メールフォルダも、こまめにチェックしてください。面談の日程調整のため、齋藤から各自にメールをします。受け取ったら、すみやかに返事をください。面談は、対面またはZoomで実施します。

<p>担当教員</p>	<p>佐藤 恵 (さとう けい)</p>	<p>2023 年度 時間割</p>	<p>月曜 5 限</p>
<p>教員のプロフィール、研究テーマなど</p> <p>法政大学キャリアデザイン学部へは、2012 年 4 月に着任しました。法政大学着任前は、桜美林大学の国際学部とリベラルアーツ学群に計 9 年間勤務しており、さらに、大学教員になる前は、予備校の講師でした。</p> <p>予備校と大学の両方を経験している立場から見ると、予備校の受験教育と大学の教育とには、はっきりとした違いがあります。受験教育のポイントは、「得点力」をつけるための暗記をお手伝いしつつ、さまざまな解法テクニックを伝授することであり、そうした学習は、いわば「お勉強」とでも呼ぶべきものです。それに対して、大学における学びは、自分の頭でものを考え判断する力、すなわち「実力」をつけるための「勉強」です。そして、「勉強」は、講義科目だけでなく、ゼミのように学生自らが主体的に取り組む学びの場に参加してこそ、より充実したものとなります。皆さんにはぜひ、ゼミでの「勉強」を通して、自分で考える力＝「実力」をつけていただきたいと思います。</p> <p>その上でわたしは、ゼミが、「勉強」の場であると同時に、大学における「居場所」「ファミリー」でもあってほしいと願っています。「居場所」「ファミリー」としての、居心地のよいゼミをつくるためにも、「楽しくなければ社会学じゃない」という考えのもとで、「楽しい＝不真面目」「暗い、重い、難しい＝真面目」という「常識」を疑い、「楽しい and 真面目」＝「社会学」というゼミのあり方を追求していきたいと思います。</p>			
<p>演習のテーマ</p> <p>【自分で考える力を身につけよう！】 → そしてゼミ論・卒論をめざして、【社会学への招待：常識を疑え！】</p>			
<p>演習の内容、進め方など</p> <p>当ゼミは、社会学のゼミです。社会学は、社会・文化に関する「常識」を疑い、その裏に隠された世の中のしくみを解明することをめざします。ただし、「常識を疑う」ことは、「常識を捨てる」こととは異なります。「常識を疑う」ということは、自分のものの見方・考え方の幅を広げ、「常識」以外の選択肢を探った上で、複数の選択肢から主体的に自己選択・自己決定していくという実践です。主体的な自己選択・自己決定の結果ならば、「常識」的な選択肢を選ぶこと、あるいは「常識」とは異なる選択肢を選ぶこと、いずれも価値ある選択と言えます。</p> <p>当ゼミでは、ゼミでの学びを通して、社会学の基本的なものの見方・考え方を習得し、それに基づき、ゼミ生が自分なりの関心あるテーマについて社会的に研究し、ゼミ論（3年次末時点で完成）、卒論（4年次末時点で完成）を作成できるようになることをめざします。</p> <p>担当教員であるわたしの専門分野は社会学（地域社会学、福祉社会学、犯罪社会学）、社会調査（質的調査）で、最近の研究テーマは支援の社会学（犯罪被害者支援、障害者支援、震災復興支援、ボランティア/NPO、ピア・サポート/セルフヘルプ・グループ）です。ただし、以上は、あくまでわたしの専門分野・研究テーマであって、ゼミ生のかたは、「地域・福祉・犯罪・支援」以外のテーマで OK です。社会的な視点・発想に基づいていければ、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です（社会的視点・発想はテキストを用いてゼミ中に基礎から学んでいきますので、ゼミ選択時点では社会学の知識はなくても大丈夫です）。</p> <p>ゼミの活動の具体的な内容としては、①ニュース記事に基づくディスカッション、②テキスト講読による社会的な視点・発想の学習、③ゼミ論・卒論作成（構想発表、論文執筆）、④学生研究発表会に向けたグループワーク、⑤合宿・イベント・懇親会等です。</p> <p>2年次秋学期の段階では、月曜日 5 限のゼミに参加します。ディスカッションを通して上級生や同級生の多様な意見に触れ、ものの見方の幅を広げつつ、自分なりの考えをまとめ説明するトレーニング ①、学生研究発表会に向けたグループワーク ④、イベント ⑤ 等が、ゼミ活動の中心となります。</p> <p>3年ゼミは月曜日 5 限・6 限、4年ゼミは月曜日 4 限・5 限に行きます。4 限（4 年ゼミ）・6 限（3 年ゼミ）では、社会学の基本的テキストを用いて [4 年は 2 冊目のテキスト、3 年は 1 冊目のテキスト]、社会学の視点・発想を基礎から学んでいます ②。5 限は 3 年・4 年合同ゼミで（秋学期からは 2 年生も参加）、ニュース記事に基づくディスカッション ①、学生研究発表会に向けたグループワーク ④、イベント ⑤ 等を行っています。なお、感染症対策のため実施できなかった年度もありましたが、例年、ゼミ合宿 ⑤ も実施しています。</p> <p>その上で、3年生・4年生は、週 1 回の月曜日のゼミの時間以外に、論文構想発表会を年に数回開催して ③、ゼミ論・卒論の完成をめざしていく予定です。</p> <p>いずれにせよ、ゼミの進行方法などに関しては、ゼミ生と相談の上、状況に応じて決めていきたいと思います。</p> <p>感染症対策のため、オンライン中心のゼミ運営となった年度もありましたが、2023 年度春学期は対面で開講しています。</p>			
<p>履修の条件、学生への要望など</p> <p>合宿、論文構想発表会等、毎週のゼミの時間以外の課外活動にも積極的に参加することが求められます。</p> <p>ゼミという性格上、登録だけして出席しない「幽霊君」も困りますが、出席だけして発言しない「お地蔵さん」も困ります。報告・ディスカッションに積極的に取り組み、お互いの意見をめぐって議論し合うことが大切です。きちんと出席し積極的に報告・ディスカッションに取り組む主体性、ゼミ生仲間と連帯して一緒にゼミをつくっていくという協調性を期待します。</p> <p>なお、2年次秋学期からゼミの活動が開始となりますが、それ以降、3年次ゼミでゼミ論をまとめ、それをもとに 4 年次ゼミで卒論を執筆することを前提とします。</p>			

履修希望者向け情報

現ゼミ生は、4年生13名（男性5名・女性8名）、3年生15名（男性7名・女性8名）です。

教員へのゼミ履修相談は、E-mail (keisato@hosei.ac.jp) でお願ひします。

5/15(月) 5限、5/22(月) 5限、5/29(月) 5限にゼミ見学会（事前申し込み不要）を開催します（3回とも外濠校舎4階S406教室）。当ゼミにゼミ希望を申請される場合、3回のうち1回以上のゼミ見学参加をお願いいたします。

また、3年・4年ゼミ生によるゼミ説明はInstagramでも行います。アカウント satokezemi にアクセスしてください。このアカウントから、ふだんのゼミの様子を写真や動画で情報発信したり、皆さんからの質問にお答えしたりします。

ゼミ希望申請フォーム（文字数制限はありません）には、(1) 志望動機（ゼミに入って研究したいこと等）、(2) 自己PR、(3) 今まで頑張ってきたこと（大学時代に限らず）、(4) 参加したゼミ見学の日時、(5) 法政Gメールアドレスをご入力ください。

応募者多数の場合は、書類審査に加えて面接を実施します。面接に関する連絡は基本的にメールで行いますので、適宜ご確認をお願いします。

★【2020年3月卒業ゼミ生が執筆した卒論のテーマ】

- ・おもてなしの本質について：理想のおもてなしとは
- ・「ありのままの自分」を社会的に捉える
- ・名前の社会学：名づけのプロセスと名前の社会的機能
- ・応援・励ましが持つ力：プラスの言葉はプラスの力になるのか
- ・より良い社会のための性教育
- ・サイコパスは「悪なのか」
- ・テレビジョンがもたらす影響を社会的に紐解く
- ・就職活動の社会学：マニュアル化就活の問題点とその改善
- ・コンテンツと地域の関わり方
- ・ファッションの流行と現代の若者
- ・運命の社会学
：人生100年時代という運命を社会学の観点から紐解く

★【2022年3月卒業ゼミ生が執筆した卒論のテーマ】

- ・子をもつ親の社会学—近代家族が抱える問題
- ・SNSと観光の社会学—若者のSNS利用の拡大とこれからの観光
- ・SNSの発達と社会的孤立—若者のコミュニケーションは希薄化しているのか
- ・被害者批判の社会学—セカンドレイプの実態と批判動機の社会的考察
- ・ライフプランニングの社会学
- ・真面目と不真面目
- ・社会的に見た都市伝説
- ・飲み会の社会学—会社の飲み会をサードプレイスとして成り立たせる為の社会的考察
- ・現代ファッションの社会学
- ・運と社会学
- ・ライフステージにおける若さの価値について
- ・広告の社会学
- ・キャラクターの社会学

★【2021年3月卒業ゼミ生が執筆した卒論のテーマ】

- ・偽善は悪か
- ・バンドマンの社会学
- ・住むことの社会学：これからの「家」に求めるもの
- ・広告の社会学：嫌われる広告
- ・「意識高い系」の社会学
- ・ダイエットの社会学：なぜ女性はダイエットをするのか
- ・音楽と記憶の社会学：音楽を聴いて蘇る思い出
- ・自分らしく生きる時代：社会学の視点から若者のメイクアップをみて
- ・見た目の社会学
- ・依存・依存症との共存
- ・日本のポピュラー音楽における歌詞の変化と背景：歌謡曲からJポップの流行歌を探って
- ・結婚の社会学：若者の結婚観と恋愛観
- ・売れる映画と社会：人はなぜ映画館へと足を運ぶのか

★【2023年3月卒業ゼミ生が執筆した卒論のテーマ】

- ・現代日本人と笑わないマスコット・キャラクター
- ・自尊心と比較社会学
- ・留学における自己効力感の向上
- ・物語の社会学
- ・プライドの社会学—プライドが対人関係維持に及ぼす影響
- ・第一印象の社会学
- ・好き嫌いの社会学
- ・笑いの社会学
- ・社会変化と空間のあり方
- ・コレクターの社会学
- ・モビリティは持続可能な都市・地方創生に貢献が可能なか
- ・アイドルオタクの社会学
- ・韓国文化流行の仕組みと世代間格差
- ・食品ロスを減らすために何ができるか—大学生における食品ロスに関する教育の必要性和ボランティア活動の意義
- ・差別の社会学

<p>担当教員</p>	<p>田中 研之輔 (たなか けんのすけ)</p>	<p>2023 年度 時間割</p>	<p>木曜 5・6</p>
<p>教員のプロフィール、研究テーマなど</p> <p><u>組織・集団・キャリアに関する研究</u>を行っています。国内の大学院を出てからメルボルン大学大学院政治学研究科に2年、カリフォルニア大学バークレー校大学院社会学研究科に2年、計4年客員研究員として在籍。2008年から法政。</p> <p>映画・読書・LIVE・テクノロジー好き。 関心を持った映画は、必ず、みてます。ChatGPTの最適運用法検証中</p> <p>*企業の社外顧問を35社歴任。とくに、ITビジネスには精通しています。AI、IOT、シンギュラリティを語れます。 *近年は、本の出版を個人タスク。毎年出版。刊行書籍は32冊。『先生は教えてくれない大学のトリセツ』(2017)『先生は教えてくれない就活のトリセツ』(2018)『プロティアン』(2019)『キャリア戦略』(2022)『プロティアンシフト』(2023)など。</p> <p>馴染みのあるSNSを一つ見てください。活動や関心を発信しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"></div> <div style="text-align: center;"></div> <div style="text-align: center;"></div> <div style="text-align: center;"></div> <div style="text-align: center;"></div> <div style="text-align: center;"></div> </div>			
<p>演習のテーマ</p> <p>個々の問いをチームで深める。これを大切にしています。「ライフキャリア・社会情報・テクノロジー」関連自らの関心で、「問い」をたて、その「問い」を深化させていきます。「働くことと生きること」をともにアプローチすることを大事にしていますそれぞれの「強み」を最大限に活かす「現場」を探していきます。</p>			
<p>TTCの内容、進め方など</p> <p>ゼミは、ゼミ生のものです。内容、司会、議論も、ゼミ生がつくっています。教員は、運営スタッフ的役割。(専門知識が必要なときに限り、アドバイスします。) 本ゼミの特徴</p> <p>2年生から4年生までが、学年をこえて一緒に学ぶ。 → 卒業後も、つながるゼミ。</p> <p>現役組と卒業組、計223名でのネットワーク。OB・OGから「働く」ことを学ぶ特別セッションも。</p> <p>[春学期] [秋学期] 「聞く」より「話す」を重視。 * 毎回、小グループをつくり、意見交換していきます。</p> <p>① 毎週3名が交代で「5分間プレゼンテーション」を実施しています。(25分) ② 文献講読&ディスカッション 「デザイン思考、イノベーション論、ティール組織、ライフキャリア論」が近年のテーマです。 Facebook groupで、OB/OGとも頻りに情報共有をしています。OB/OGも、ゼミにやってきます。英語を大事にしたいと思っています。1人でやるとなかなか大変ですが、みなでやれば、楽しいです。 卒業論文は、全員提出。計画的に執筆をしていくように、発表の機会もつくっています。</p>			

ゼミ生との共通目標

- ① 自己のレベルアップ ② TTC への組織的貢献

* 国内でインターンシップ、海外留学や海外インターンシップ等、ゼミ生が「自由」に取り組んでいます。

【TTC 見学について】

木曜日 5・6時限 : 5/11 5/18 5/25 F309 で実施

17:00-19:00 *19:00-19:15 先輩への質問会途中退出も OK.

可能な限り、参加して、先輩たちの取り組みの様子や雰囲気を感じてみてください。

TTC は OB/OG や特別ゲストとの交流機会も創出していきます

【TTC で、手に入れること】

- ① **身体的・精神的な「ハッピー」**
② **国際コミュニケーションとしての実践的英語** (現在の英語レベルは、一切、問いません。)
<過去実績: TOEIC 380 → 630 TOEIC 480 → 910 まで伸ばした学生もいます。>
③ **希望就職・大学院進学にむけたチームプレイ**
④ **各業界の経営者・社会人とのネットワーク、OB/OG の身近なアドバイザー**

【TTC 履修相談・連絡先】

facebook mail or メールでのアポイント (メールアドレスは、ktanaka76@hosei.ac.jp)

* 返信は必ずします。返信がない場合は、受信できていない場合です。再度コンタクトをとるようにしてください。

【TTC 選考過程】

選考過程:「演習履修希望フォーム」の内容をもとに選考。ゼミ公開期間に、見学にきてください。

TTC生は、英語力・社会情勢分析能力・論理的思考力を向上させています。

TTCをさらにエキサイティングでスリリングな思考空間・集団へと成長させる為の労を惜しみません。

一緒にTTCの「生きられる歴史」を作り上げていきましょう。

【本ゼミ卒業生の主な就職先】 大学はたった4年、働くは40年、生きるは90年、の「土台」づくりに!

トヨタ、NHK、日本テレビ、フジテレビ、テレビ朝日、北海道放送、群馬放送、福岡放送、電通、博報堂、AMAZON、キーエンス、デロイトトーマツ、パナソニック、リクルート、パーソル、パナソニック、エン・ジャパン、日産自動車、みずほ銀行、三菱東京UFJ、モルガンスタンレー銀行、大和証券、全日本空輸(ANA)、日本航空(JAL)、JTB グループ、NTT ドコモ、ソフトバンク、KDDI、楽天、太陽企画、サイバーエージェント、アマナ、voyage、schoo、ギークリー、東急エージェンシー、マクニカ(商社)、HIS、ワークスアプリ、GMO、ソフトバンクヒューマンキャピタル、デサント、JFC、ユニクロ、コカコーラ、星野リゾート、セブンイレブン、青山商事、味の素、オスカー、テイクアンドギブ・ニーズ、JCB(順不同)

その他: 起業3名(デザイン会社、アプリ製作等)、大学院進学3名、海外大学・大学院進学2名

伊藤忠、住友商事、アサヒ、キリン、サントリー、資生堂、味の素、ユニチャーム、花王等、(4年生が就活しています。)

* facebook group で OB/OG 全員とコンタクトとれます。 現役生は、気軽に OB/OG 訪問可能。

<p>担当教員</p>	<p style="text-align: center;">福井 令恵 (ふくい のりえ)</p>	<p>2022 年度 時間割</p>	<p>月曜 5 限</p>
<p>演習のテーマ</p> <p>イギリス・アイルランド地域研究、文化社会学</p> <p>差異とともに生きる、をテーマとしています。多文化社会（多様な人々—特に移民や階級—の「共生」のあり方）、ジェンダーと社会、メディアでの描かれ方などから、文化と社会の関係について考えます。イギリス・アイルランドの事例を扱うことが多いですが（特に 2 年秋）、日本社会についてもそれを通じて考えていきます。私たちが当たり前と思っている事が、必ずしもそうではないことに気づくこと、すなわち「他者」を通じて、自らの文化や社会についてあらためて考え、視野を広げることも目指しています。</p> <p>自らの関心に基づいた課題の設定をすること、論文を書くためのスキル（問いの検討、文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、議論のまとめ方）の向上についても、取り組みます。</p> <p>これまでのゼミ生の卒論テーマの例は、「ウェールズ語はなぜ生き残れたか」、「映画の中における女性のジェンダー表象の変化—映画のリメイク作品の歌の比較から—」、「メイクに関する社会的ジェンダー観の影響について—メイクを行う男性の実践と交渉—」、「美白至上主義における科学言説の影響について」、「『現実を生きるリカちゃん』から見える DiY 文化」、「大都市圏郊外都市におけるエスニックマイノリティ—船橋駅周辺の事例をもとに—」などがあります。</p>			
<p>演習の内容、進め方など</p> <p>(2 年秋学期)</p> <p>文献講読・発表、グループディスカッション、グループワークを中心に行います。文献を読み、各自が毎回レジュメを作成しゼミに参加します（レジュメの準備方法は、授業で説明します）。レジュメをもとにグループ内でひとりずつ発表し、グループのなかでさらに議論を深めます。グループでのディスカッションの結果を授業の最後に発表します。基礎力をしっかりつけるため、多くの文献を読みます。5 限のゼミの後、6 限に 3・4 年生と合同ゼミを実施したり、関連する映画を観たりすることがあります。</p> <p>(3 年次)</p> <p>ゼミ生の関心などを考慮しながら、ゼミテーマを設定し、関連文献の講読・発表、ディスカッションを行います。成果を学生発表会で発表します。また、4 年次に向けて、個人研究のテーマの絞り込みを行います。</p> <p>(4 年次)</p> <p>2～3 年次の研究活動の成果をもとに、4 年次は卒論の完成を目指すことが中心になります。卒論のテーマは、ゼミで学んだことを踏まえていれば、自分の興味関心に基づいた内容で全く問題はありません（方法は質的調査：観察、インタビュー調査、言説・表象分析）。</p> <p>【共通】</p> <p>ゼミは 2・3・4 年生と別に実施する場合と、全学年合同で実施する場合（発表・報告やゼミ全体のテーマ等）がありますので、通年で月曜 5・6 限はゼミのために確保できる方が対象です。</p>			
<p>教員のプロフィール、研究テーマなど</p> <p>【プロフィール】</p> <p>専門は地域研究（特に北アイルランド）、文化研究、社会学です。</p> <p>北アイルランドで 15 年以上フィールド調査をしてきました。現地で街を歩き回り、地域の人々にインタビューし、時に一緒に地域のイベント等に参加し、地域メディア（壁画）に何が表現されているのか、観察し、記録を取り、分析するという調査を行ってきました。</p> <p>私は、和平合意が結ばれた後の社会で、長年対立関係にあった住民集団間にどのような関係性がつられていくのかについて関心をもって研究をしています。北アイルランドは長年の紛争（「北アイルランド紛争」と呼ばれるものです）を経て、25 年前にイギリス系の住民集団とアイルランド系の住民集団間で和平合意が結ばれました。和平合意が結ばれたといっても、住民集団の間の対立の関係性や社会・政治問題が完全に解消したわけではありません。北アイルランド社会は、現在も紛争時に生じた深刻な分断とそれともなう様々な社会問題に悩まされています。他方で、和平合意前と比べると合意後には確かに復興は進み、人々は深刻な社会の対立関係のなかでも、それを克服しようとする様々な活動をしています。また最近では、ブレグジットという大きな社会変化のなかで、イギリスとアイルランドという国の間で、北アイルランドの人々がどのように暮らしていくのかに注目しています。</p>			

履修の条件、学生への要望など

- ・ゼミは主体的な学びの場です。研究テーマは、皆さん自身が決めます。そのため、普段からアンテナを張って、社会に対する興味や問題意識を持つようにしてください(卒業論文執筆は原則として必須)。
- ・出席や課題の状況については、厳しくチェックします(なんとなく「ゼミに入っておいの方が良いみたいだし、楽に単位が取りたい」という方は本ゼミには向いていません)。バイト・サークル活動などより、**ゼミを原則として優先する**という価値観を共有できることを求めます(とはいえ、この価値観をしっかり守りつつ、ゼミ生はそれぞれ様々な活動もして、ゼミの研究ときちんと両立させています。派遣留学、SAなどに参加する先輩もいます)。
- ・「**国際地域研究Ⅰ**」(春学期)、「**国際地域研究Ⅱ**」(秋学期) (ともに木曜日 1 限) を履修することが望ましいです。応募時に未履修でもOKですが、原則として **3 年次までには必ず履修**してください。
- ・ゼミは、①文献を読み、②自分でしっかり調べ、③討議を行う、というステップを基本とします。読むこと、調べること、議論すること、書くことでじっくり思考を深める、ということを経験してください。
- ・テーマによっては英文の資料や文献を読む場合があります。英語力は問いませんが、拒否感を持たない人を希望します(外国語を学ぶゼミではありません)。
- ・ゼミ行事(サブゼミでの関連映画鑑賞、ゼミ合宿)などには参加することがゼミ生の条件です。コロナ以前の 2019 年度までは夏にゼミ合宿を行って来ました。2023 年度については、今後検討していく予定です。

履修希望者向け情報

【ゼミ見学】

- ・日時：5 月 15 日、22 日、29 日 (月) 5 限 (ポアソナード 10 階 1001 教室) でゼミを公開しています。ゼミに参加して具体的な雰囲気を見たり、先輩に直接質問をしたりすることができますのでぜひご参加ください(途中退室可)。希望者は希望日をメールでお知らせください(当日の 13:00 までに連絡をお願いします)。

【履修相談】(必須)

- ・教員による個別履修相談を行います。本ゼミを候補として考えている人は、「『演習』履修希望」の申請フォームを提出する前に、**原則として必ず「オンライン個別履修相談 (Zoom)」を受けてください**。履修相談は面接ではありません。履修希望をするかどうか迷っているという段階の人も、履修相談を受けていただいて結構です。**みなさんの興味関心と本ゼミのマッチング**を見極めることを目的としているので、履修相談後に、別のゼミに申し込むことは全く問題ありません。5/15, 22, 29 日 (月) 12:30~13:00、5/16, 23 日 (火) 14:00~15:00、5/18, 25 日 (木) の 18:00~18:30 に行います(15 分程度)。相談申し込みの際に希望する日程を 2 つ程度挙げて、**nfukui@hosei.ac.jp にメールをして下さい**。もし、上記日程で都合がつかない場合は、その旨ご連絡ください。

【ゼミ選考について】

- ・「『演習』履修希望申請フォーム」には、**できるだけ具体的に**、
 - ①本ゼミを志望する理由、
 - ②ゼミで自分が追求していきたいテーマ(何らかの社会的な課題につながるようなテーマ、個人的な関心をもとに考えることはとても大切ですが、そこを出発点にしながら社会にとっても大切だとあなたが考えるものを書くようにしてください)、
 - ③これまでキャリアデザイン学部で学んできたこと(自分が興味を持った科目やその理由、等)、を 1000 字以上でまとめてください。
- ・ゼミ選考は、「『演習』履修希望申請フォーム」による書類選考。必要に応じて面接(オンライン)を実施する場合があります(面接を行う場合は、詳細を法政 G メールで連絡します。メールでの連絡がとれない場合や、無断で面接に欠席の場合は、選考の対象外としますので予めご了承ください)。

【担当教員の連絡先】メールアドレス：nfukui@hosei.ac.jp 研究室：ポアソナードタワー 14 階 1411 号室

☆ゼミ生からのメッセージ

- ・「他者理解」に基づきつつ、自分の興味のあることを幅広く研究ができます!
- ・毎回、文献を読んでレジュメをつくるので、文章の要点をおさえる力と、論理的思考力がしっかり身につきます!

<p>担当教員</p>	<p style="text-align: center;">安田 節之 (やすだ ともゆき)</p>	<p>2023 年度 時間割</p>	<p>月曜 5 限</p>
<p>教員のプロフィール、研究テーマなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大学卒業後に渡米し、アメリカの大学院で心理学を中心に幅広く学びました。帰国後、埼玉の私立大学で6年間心理学担当の教員をしたのちに、2015年に法政大学に着任しました。 ■ 専門：コミュニティ心理学、プログラム評価論。 ■ 研究テーマ：さまざまな「コミュニティ」(学校・会社・地域)で実施される取り組み(=人が中心となつて行うプログラム)の効果について心理学の視点から研究しています。 ■ その他：研究とは関係ないですが、週末ハイカーで時間があるときに秩父・奥多摩・丹沢の山々に登っています。 			
<p>演習のテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広くコミュニティと人間行動・心理との関連性について、「コミュニティ心理学」の視点から考える。 2. どのようなプログラム(取り組み・活動・実践・支援・介入などなど)が社会的な課題を少しでも解決に向かわせ、一人ひとりのライフキャリアの質向上につながるのかについて、「プログラム評価」の視点から考える。 <p><u>コミュニティ心理学</u></p> <p>まず1点目について、皆さんは好むと好まざるとに関わらず、さまざまなコミュニティのなかで日々の生活を送っています。コミュニティ心理学の目的は、一人ひとりが多様なコミュニティのなかでより良く生きるとはどういうことなのかを探究することです。「心理学的にみた個人の幸せとは何か」「自らの所属するコミュニティをどのように活かし、そして逆に活かされ、自分に合った生き方を追求するか」「どのように自分の強みを知り、それを集団・組織のなかで活用するか」といった内容を、ウェルビーイング・コミュニティ感覚・多様性・エンパワメント・予防・社会参加・公平性といったキーワードを参考に掘り下げていきます。</p> <p><u>プログラム評価</u></p> <p>次に2点目について掘り下げていくうえで参考にするのが「プログラム評価」です。現代社会が抱える様々な課題について、プログラムという枠組みから見える化する方法を学びます。各自が関心のあるテーマに対して、どのようなプログラムが行われているのかを調べます。プログラム評価の学びのゴールは「活動をカタチに、効果をデータに」です。今後、皆さんがキャリアを紡ぐなかで携わるとされる幾多のプロジェクトや活動をしっかりとカタチにでき、その効果を量的・質的なデータで確かめられるようなスキルを身につけることを目的とします。</p>			
<p>演習の内容、進め方など：</p> <p>グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、各自が取り組みたいテーマを絞っていきます。入ゼミ時には漠然としたテーマしか思い浮かばなくても大丈夫です。ゼミでは、①各自の問題意識を皆で共有し、②関連する文献を読み、③リサーチクエスチョン・仮説を考え、④調査データ(質的・量的)を収集し、⑤データの分析を行い、⑥3年次のゼミ論・4年次の卒論としてまとめます。また2年・3年の合同ゼミではグループごとに興味・関心があるテーマ(自由)について共同研究プロジェクトを行います。下記がおおまかなスケジュールです：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月 新学期開始 ・5月～7月 ゼミ：研究テーマの検討(3年)・卒論準備(4年)・懇親会 ・8月 夏休み・ゼミ合宿 ・9月 2年生入ゼミ・合同ゼミ・自己紹介・歓迎会 ・10月 研究テーマ(仮)の検討(2年)・ゼミ論・卒論準備(3年・4年) ・11月～12月 合同ゼミ(2年・3年)・卒論追い込み→提出(4年)・忘年会 ・1月 新年会・学生研究発表会・ゼミ論提出(3年) ・2月～3月 春休み・卒業生追いコン 			

テーマ選び

- ・興味・関心のあるテーマは人それぞれ違うと思います。各自がゼミで取り組みたいというテーマを自主的に選び、研究していく形で全く問題ありません。ただ、そのテーマが単なる自分の関心事というだけでなく、より広く社会の関心事であることが大切であると考えています。
- ・自己満足の研究で終わってしまわないように、つまり「そんなことが分かってどうするのか (so what?)」あるいは「そんなことを研究して何になるのか (for what?)」とならないように、できるだけ「自分だけでなく誰かのライフキャリアの質を高めるための視点」から問いを立てるところから始めます。

ゼミ生の研究例

■ コミュニティ心理学・ライフキャリアに関する研究例

大学生の幸福度に関する研究：ライフイベントと人生の意味からの考察 / コロナ禍が人々のWell-Beingにもたらした影響 / 大学生の精神的健康保持に関する研究：レジリエンスとの関連性を中心に / 共同体意識が競争観と幸福感に及ぼす影響に関する研究 / 功利主義と利己主義から考える幸福論 / 男女別学教育が女子大学生のキャリア構築に及ぼす影響 / 大集団によらないコミュニティのあり方：心理的コミュニティ感覚から考える / 地域の特色が大学生の地元への愛着に及ぼす影響に関する研究

■ プログラム評価に関する研究例

音楽と街づくりを結ぶ「おとまち」事業のプログラム評価 / コミュニティボールパーク化構想のプログラム評価：横浜DeNAベイスターズを事例として / 中等教育におけるダンス教育の教育効果の評価 / 野毛青少年交流センターの社会的意義と課題の可視化：プログラム評価を活用して

詳しくは、研究室HPを参考：<http://programevaluationlab.jp/seminar/undergraduate/>

履修の条件、学生への要望など

毎回出席はもとより、ゼミ活動に主体的に関わり、お互い協力してゼミ運営に携わってもらえることが基本条件です。特に、ゼミのイベント（合宿・研究発表会など）に基本的にはすべて参加できる学生を希望します。

履修希望者向け情報：ゼミ履修相談について

- ゼミ説明会・見学会：5月22日（月）および29日（月） 5時限 場所：BT504
（※申し込み等は不要、途中入退出可です）
- 演習履修希望フォームには、①現在、どんな研究テーマに興味・関心があるか（※重要です）、②大学の授業や大学生活全般を通してこれまで何を学んできたか、③自己PR（※簡単に）、ゼミで学びたい内容などを書いてください。形式や字数は問いません。
- 応募者多数の場合は、提出された希望フォームをもとにオンライン（Zoom）での面接を実施予定です。
- 連絡は、法政Gメール宛に行いますので、必ず確認してください。

【担当教員の連絡先】

研究室：80年館6階610号室

メール：yasuda.tomoyuki@hosei.ac.jp ※「件名」に必ず「ゼミ履修について」と記載してください

研究室HP：<http://programevaluationlab.jp/>